

小山田地区に関連する主な計画について

1. まちだ未来づくりビジョン 2040／町田市 5 カ年計画 22-26

「まちだ未来づくりビジョン 2040」は、市の基本構想・基本計画で、「町田市 5 カ年計画 22-26」は、「まちだ未来づくりビジョン 2040」で示した目標（政策や施策、基本方針）を達成するための 5 カ年の実行計画



施策 8-3

健やかで心地よい時間を
過ごせる環境をつくる

施策実現によってなりたい姿

- 地域の特色に合わせたみどりの空間づくりにより、多彩で豊かなみどりがまちを象徴する魅力の一つに育っています。多くの人がみどりの中で日常的に心地よい時間を過ごし、みどりを馴染み深い場所と感じています。
- みどり（公園、農地、里山など）を活用した地域住民の能動的な活動が促され、地域内資源の循環が促進されています。
- 都市農地[※]の保全と利活用により、農地の多面的機能が発揮されています。

なりたい姿の実現度を測る指標

みどりの環境に満足している
市民の割合

現状値

79.8%

(2021年度)

目標値

90.0%

(2031年度)

現状と課題

【国や東京都に関する現状・課題】

- 「都市公園法」では、民間活力の導入など都市公園の再生・活性化を推進しています。
- 東京都の「都市計画公園・緑地の整備方針」と「緑地の総合的な方針」では、みどりの量の維持を掲げ、特定生産緑地[※]も守るべき緑として位置づけています。
- 生産緑地[※]の多くが2022年に指定から30年を迎え、一斉に買取りの中出ができるようになります。

(2022年時点)。

【町田市の現状・課題】

- 市内北部を中心にまとったみどりがあり、住宅地内には公園、緑地、生産緑地があるなど、市内には規模や特徴の様々なみどりが存在しています。
- 4つの大規模な公園（薬師池公園、野津田公園、芥ヶ谷公園、鶴間公園）では、観光や都市の魅力向上を目的にした先導的な取り組みを実施しています。

- 市内には多くの生産緑地があるため、今後の土地利用の動向を注視することが必要です。

【今後予想される課題】

- 市街化区域内の生産緑地を、公園・緑地を補完する資源としていくことが必要です。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

① みどりを活用した心地よい環境づくり

市内にあるみどりの役割や活用方法を明確にし、人それぞれの過ごし方に応じた空間を選択できる環境を整えます。

② みどりとのかかわりによる健康的な暮らしの支援

みど리の中で行われるアクティビティの育成を進め、市民の健康的な暮らしを支援します。

関係する町田市の計画

- 町田市都市づくりのマスタープラン

みんなの想い

みどりの中で音楽を楽しむ
イベントを企画したい。

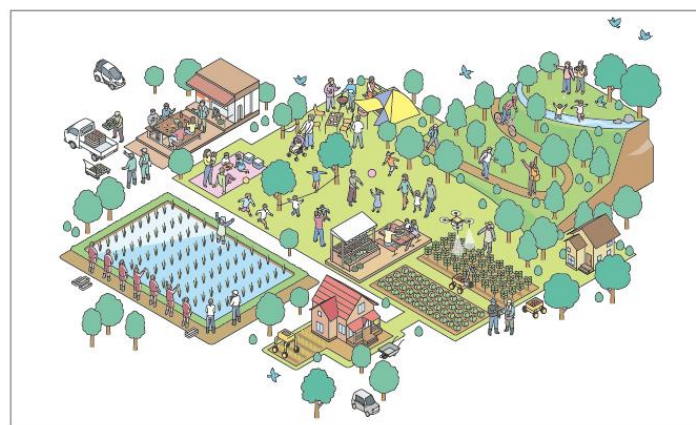
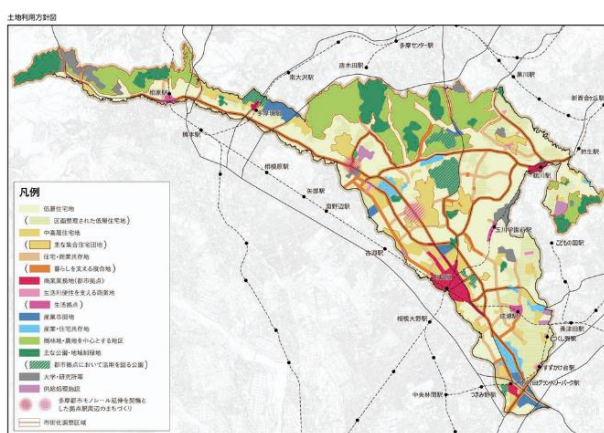
重点事業2 忠生・北部丘陵地区のまちづくりの推進 新規

事業概要

- 「町田市都市づくりのマスタープラン」で掲げる暮らしとまちのビジョン実現に向けて、多摩都市モノレールの沿線となる忠生・北部丘陵地区のみどりと暮らしの関係づくりを進めます。
- みどり空間（公園、農地、里山などのオープンスペース）を一体的に捉え、活用と保全が持続されていく仕組みや体制づくりに取り組みます。

年度計画（主な活動）		2022	2023	2024	2025	2026	
●みどり空間活用に向けた官民連携の体制構築		●					
●みどり空間活用のビジョン策定		●					
●みどり空間活用の取り組みの検討と実施			●————→				
目標指標		現状値	2022	2023	2024	2025	2026
①まちづくりの事業化		検討中	検討実施	————→		事業化	
事業費概算		35百万円		所管部		都市づくり部	
事業を支える団体等		NPO法人／公園指定管理者／事業者／地域活動団体／農業者など					

2. 都市づくりのマスタープラン

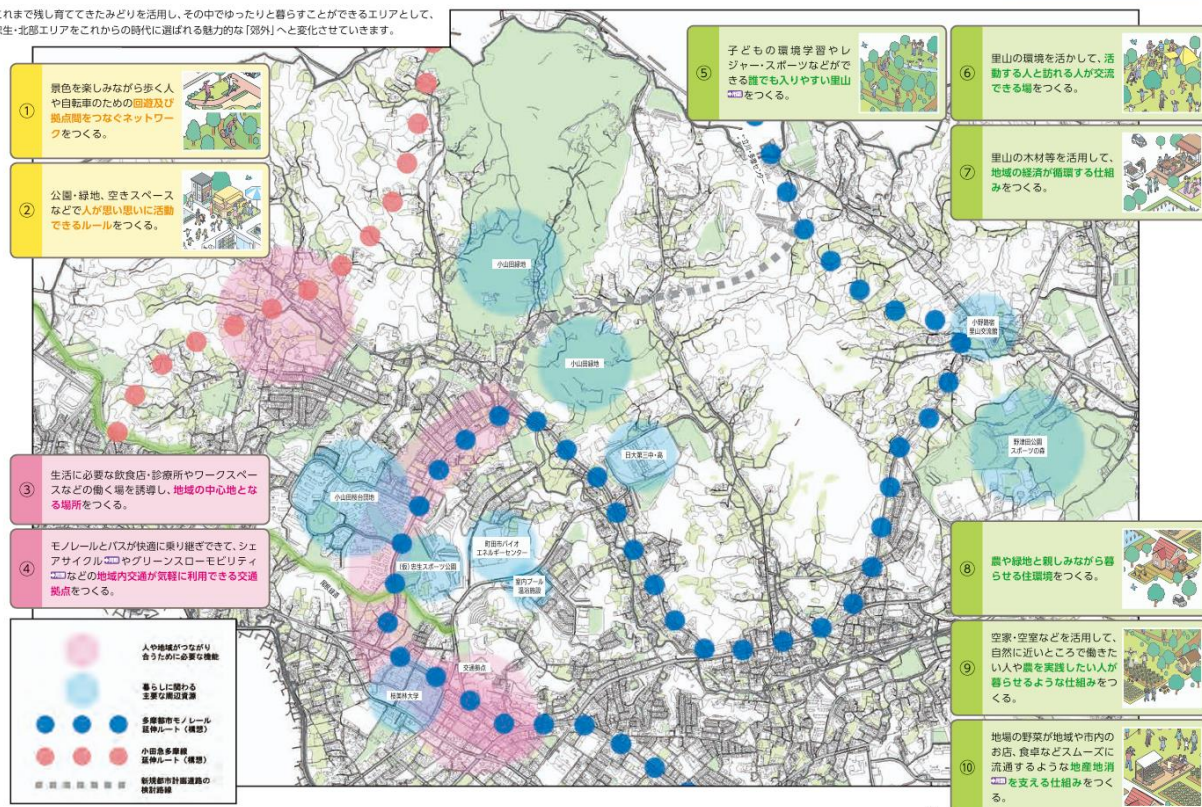
2040 年までの都市づくりの基本方針
を示す計画みどりや農との関わりを日常の一部にしながら
ココロとカラダを育む暮らし

主な地域の例 ●市街化されていない丘陵地とその周辺

- 里山の農やみどりがもっと身近で馴染みあるものになる
- 里山の中での農やみどりを、昔から引き継がれてきた象徴的な風景が身近にある。そんな生活が、みんなにとって馴染みある暮らしと感じられている。
- 市内各所から小中学生が集まり、田植え・稲刈り・炭焼きなど、里山の環境を活かした体験ができ、町田ならではの学びの場で子どもたちの心と体が健康やかに成長する。
- 農やみどりに関わりたい人の思いが実現する
- 援農ボランティアや市民農園で汗を流したり、農業研修で学んだ技術を新規就農者として活かすなど、さまざまな形で農に関わりたいという思いが実現されている。
- 地元野菜が地域内のレストランで味わえたり、小売店舗などで手に入れた地元野菜とのつながりが健康的な暮らしを支えている。
- 間伐材を利用した木材加工品の制作など地域の木材等を利用したイベントに参加することで地元の木のぬくもりを感じている。
- 地元のみどりの中でココロとカラダが健康になれる
- 自然環境を活かしたスポーツやレジャーを楽しむことができるフィールドがつくれるなど、さまざまな目的にあわせてみどりに関わる人が増えている。
- 民家を再利用した仕事の場がつくれ、みどりを身近に感じながら気持ちよく健康的に働くことができる機会が増えている。
- 農やみどりに包まれた環境で住み続けられる
- 地元で暮らしてきた人たちが、新たに住民たちとともに、地域資源を有効に活用しながら、地元への愛着を持って住み続けている。
- 「地域の農やみどりを守る」「歴史や文化を次世代に引き継ぐ」という思いを持った人が地元に住みながら活動している。

4 忠生・北部 みどりと暮らしの関係をつくるプロジェクト ～忠生・北部エリアで「暮らしとまちなみのビジョン」を実現するための取組～

これまで残してきたみどりを活用し、その中でゆったりと暮らすことができるエリアとして、忠生・北部エリアをこれからの時代に選ばれる魅力的な「郊外」へと変化させていきます。



※「多摩都市モノレール延伸ルート（構想）」及び「小田急多摩線延伸ルート（構想）」は、「多摩都市モノレール延伸ルート検討委員会」及び「小田急多摩線延伸に関する関係者会議」の資料を基に策定されたものです。（本マスタープラン策定時点で都市計画決定されているものではありません。）※地味などの施設などを踏まえて、各施設の具体的な位置を今後検討していきます。

3. 小田急多摩線の延伸

2016 年 4 月 20 日に国の交通政策審議会から出された、「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」の答申において、小田急多摩線の延伸（唐木田～相模原～上溝）は、「東京圏の都市鉄道が目指すべき姿」を実現する上で意義のある 24 のプロジェクトの一つとされた。答申の中では、小田急多摩線の延伸に係る意義、課題が示された。

○意義

相模原市及び町田市と都心部とのアクセス利便性の向上を期待

○課題

- 収支採算性に課題があるため、関係地方公共団体等において、採算性の確保に必要な需要の創出に繋がる沿線開発の取組等を着実に進めた上で、費用負担のあり方を含む事業計画について十分な検討が行われることを期待
- 東京都と神奈川県に跨がる路線であるため、関係地方公共団体が協調して検討が行われることも期待
- 関係地方公共団体において更なる延伸を検討する場合には、本区間の整備の進捗状況を踏まえつつ行うことが適当である

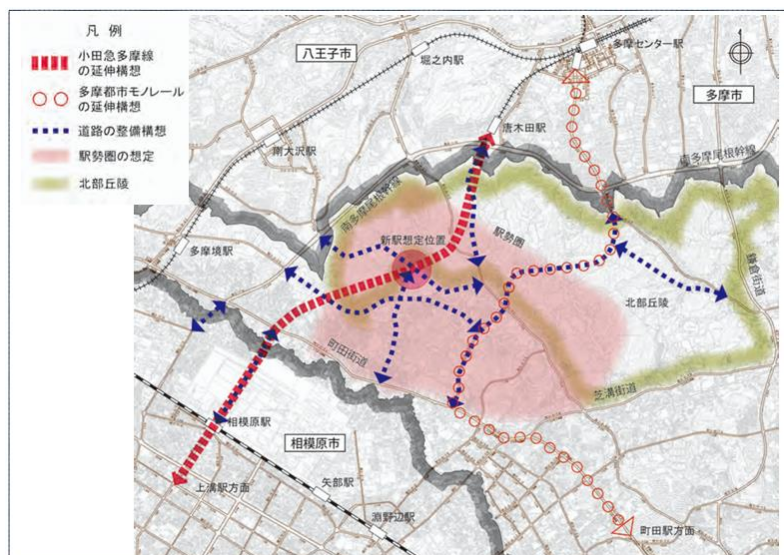


小田急多摩線延伸に関する関係者会議

交通政策審議会答申で示された収支採算性の確保等の課題の整理及び延伸に関する意見交換・検討を行うため、町田市、相模原市、学識経験者、鉄道事業者、国、東京都、神奈川県等で構成する関係者会議を 2016 年 8 月に設置。現在、小田急多摩線延伸の実現に向け、課題の解決に向けた具体的な取り組み内容について検討している。

4. 小田急多摩線延伸新駅を中心とした小山田周辺まちづくり構想

鉄道駅の新設という大きな契機を捉えて、小山田周辺が暮らしやすく訪れやすいまちとして機能しつづけるよう、新駅（小山田バス停留所付近を想定）を中心とした小山田周辺の目指すべき将来の姿を示す。



○まちづくりコンセプト

みんなの広場（駅前広場）でつながる小山田ライフ！

鉄道駅の新設を大きな契機とした新たなまちの形をつくるうえで、まちに暮らす人々にとって集まりたくなる場所、北部丘陵のみどりを訪れる人々にとって玄関口となるような「みんなの広場」を“まちの顔”としてしつらえ、広場を中心にまちがつながり、人がつながっていく、そんなまちの実現を目指します。

○まちづくり方針

- 便利で安心して暮らせるまち
- 余暇を楽しめるまち
- 人の交流を育むまち



○今後のまちづくりの進め方

- 鉄道延伸の取組との連動

交通政策審議会の答申結果を踏まえた鉄道延伸の取組と連動して、計画的・段階的なまちづくりを進めていく。

- 主体間の役割分担

地域住民・地権者、事業者、市などの多様な主体が、まちづくりの目的を共有し、適切な役割分担のもとで主体的に取り組む、エリアマネジメントの観点からのまちづくりの推進を目指す。

5. 小山田エリアにおける里山環境再生・活用拠点施設のあり方に関する基本構想

市は、市内の里山環境を資産として活かし、その価値をさらに高めていくため、市内外の団体や企業など幅広い主体との連携・協働による里山の間（空間）と農産物や木材などの里山の資源の活用を推進し、里山における経済、社会、環境の新たな循環の構築を目指す「新しい里山づくり」に取り組んでいくこととしている。本構想は、「新しい里山づくり」を推進するため、小山田エリアにおける里山環境の再生と活用の中核的な役割を担う拠点となる施設のあり方や方向性などについてまとめた構想。

○拠点施設の目的

- ・里山に人を呼び込み関わる人を増やす。
- ・山林や農地などの里山資源の活用を推進する。
- ・子どもから大人まで幅広い世代に里山の学びの機会を提供する。

○拠点施設のコンセプト

里山に関わる人を増やし、里山環境の再生と里山資源の活用を持続的に行う、「新しい里山づくり」を推進する施設



○拠点施設の整備候補エリア

